

毎日寒い日が続いてますが、暦の上では立春、つまり春の始まりです。何か、ワクワクしてきませんか？



通常のカレンダー（太陽暦）と二十四節気とは実情が少し合わないようですが、旧暦の立春は一年の始まりです。冬と春の分かれ目が節分ですから、その翌日の立春は「さあ、今日から春だぞ」なんですね。学生時代、この時期に「冬来たりなば、春遠からじ」という創作紙芝居を鳥取砂丘子ども国で行いました。山陰の厳しい冬を、春を待つエネルギーに変えようよ・・・騒いでいた小学生が何も注意をしないのにじっと見入ってくれたのが印象に残ってます。「どこかで春が生まれてる♪」さあ、そこまで春が来ていますよ。

【ニュース】

1. 診療日の変更をお知らせします

今月の診療日の変更はありません。

2. 骨粗鬆症のチェック

検査期間が延長されました。次回は**平成27年3月10日(火曜日)**です。検査時間は5分ほどです。窓口でご予約下さいね。

3. 鳳中学校の生徒さん、職場体験に来たる！

1月28日と29日の両日、鳳中学校の2年生3名(男子1名、女子2名)が職場体験としてミタクリに来てくださいました。初めての試みとして外来診察のエスコートもしていただきましたが、将来医療職が希望の3人は「とても勉強になりました！」とニコニコ顔。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

【ミタクリ歳時記 六神丸あれこれ】



今月は六神丸についてお話しさせていただきます。私たちは保険診療ですので植物性生薬（草根木皮）を中心とする漢方薬で治療を行っています。ですからこういったお薬は「聞いたことないよ！」と、なじみがないわけですが、動物性・鉱物性生薬を使った有名な漢方薬です。名称の由来は、中国の方角の四神（東方の青竜（せいりゅう）、南方の朱雀（すざく）、西方の白虎（びやっこ）、北方の玄武（げんぶ））に十二天将（安倍晴明はじめ陰陽師（おんみょうじ）の占術で使われる象徴神）の句陳（こうちん）、騰蛇（とうだ）を加えた六神をモチーフにしています。中国の清朝の時代に創薬されたもので、強心作用をもつ動物性生薬である蟾酥（センソ）を中心に、麝香（ジャコウ）、牛黄（ゴオウ）、熊胆（ユウタン）、人參、沈香（ジンコウ）の六薬

を中心に、真珠・羚羊角（れいようかく）などを加減して作られています。ただ基原動物がワシントン条約によって保護されているもの（麝香、熊胆）もあります。最古の名称は雷氏方に由来し、当時はすべてが動物性・鉱物性の生薬でした。その後毒性のあるヒ素（ゆうおう）、鶏冠石（けいがんせき）や水銀（辰砂（しんしゃ））を人參などに変えていますので、安全性に配慮した内容になっています。最近CMでも「気血めぐり」が謳われていますが、動物性生薬の駆瘀血（おけつ）作用（血の巡りをよくするはたらき）には定評があります。

昨年からは、私は奈良県立医大大和漢方医学薬学センターで、大学病院の漢方診療に加え、伝統生薬（大和当帰、大和芍薬、黄柏（きはだ）など）の栽培にも協力させていただくことになりましたが、注目したのは奈良県の配置薬です。江戸時代（中期）、多くの民を救う目的の配合薬の調整法、効能や服薬の解説書が多く出版されました。藩の経済基盤を安定させるため、大和（奈良）、越中（富山）、近江（滋賀）などの家伝薬が売薬となりました（奈良西大寺に伝わる豊心丹、曲直瀬玄朔（まなせげんさく）創方の延齡丹、堺の商人万代掃部助（かもんのすけ）家伝の反魂丹、疳虫対策の奇應丸など）。「かゆいところに手が届く」この発想は患者さんの身近なところで医療をしている私たちのお手本です。こういったお薬のことも、気軽に診察室で御相談下さいね。

【欣子先生の診察室だより】



〈奈良新聞に掲載されました〉

最近、外来が混雑していてご迷惑をおかけしております。私は外来診療が大好きなので朝から晩まで診察してきたいのですが、何が辛いって・・・皆さんをお待たせしている・・・と思うことが一番辛いです（涙なみだ）早くしたいけど手は抜きたくない。どうぞご理解頂き、待ち時間をちぐさのもりでコーヒーでも飲みながら・皆さんから寄付された本を読んでいただきながらお過ごしください。午後診は基本的に予約のみですのでズレは少ないです。

さて、前面の三谷先生の歳時記にも書かれていますが、私も昨年末から少しだけ奈良県の“漢方のメッカプロジェクト”に関わらせて頂いています。奈良で医者にしてもらったのに、なんも恩返ししていなかった罪滅ぼし？です（笑）

奈良県は、もともと漢方に関わりが強く、奈良時代から薬草を栽培し利用した歴史（ほんまはもっと昔からでしょうけど）があり、正倉院御物にも各種薬草が保存されています。地場産業として陀羅尼助（だらにすけ）など民間薬・配置薬が発展してきた歴史も踏まえ「良質な薬草を安定して栽培し、商品製造販売といった産業をいっそう発展させよう」と県を挙げて取り組まれているのです。私が大学生のころは、漢方使いたいと言うと“仙人になるんか？”と笑われたことを思いますと隔世の感があります。

近年、中国国内での漢方の原料となる生薬の価格は高騰、その上乱獲で枯渇寸前のものもあり漢方薬は今後どうなっていくんやろうという側面があるので、国内で、それも安心安全の薬草が栽培されることは大事なことです。ただ薬草を栽培すると言ってもそれが利益を生まなければ生産する方は増えません。例えば大和当帰という薬草があります。そうそう、当帰と言えば当帰芍薬散や桂枝茯苓丸など女性に不可欠な薬にはたいがい入っています。漢方薬として使うのは根っこの部分なんですけど、捨ててしまう茎や葉を入浴剤・お茶などで売れば（実際すでに商品化されています）価値は高まりますよね。ですので、漢方生薬として使うのはもちろんですが化粧品・食品といった薬用外のところで商品化出来ないかも模索する必要があります。今思いついたのは口腔内のうがい液とか・・・なんか最近歯茎の調子がおかしいんだけど化学物質一杯のうがい液は使いたくないし、安全にくちゅくちゅできるものがあったら・・・などなど、皆さんの方が“こんな欲しい！！”“ってあるのでは？今なら商品化してもらえるかもです（笑）アイデア、お待ちしております！！

【外来担当医一覧 2015年2月現在】 予約電話番号：072-260-1601

診察受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00-11:00)	巽	三谷	巽/三谷	巽	巽/三谷	三谷
午後 (14:00-16:00)	巽(予約)	巽(訪問診療)	巽(予約)	巽(訪問診療)	巽(予約) 三谷(訪問診療)	
夜診 (16:30-18:30)		三谷	三谷		三谷	